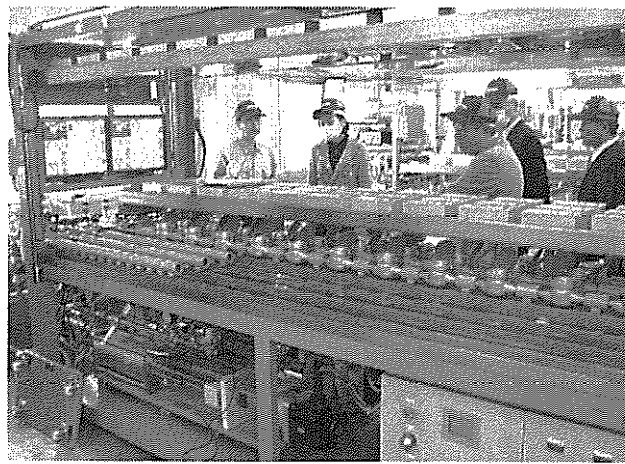


### 前澤給装の水道メーター製造ライン視察

#### 日本協認証制度運営委員ら



日本協認証制度運営委員会のメンバーは、9日の会合に先立ち、水道メーターの製造ラインを持つ前澤給装工業メーター事業部(埼玉県幸手市)を視察した。写真。出迎えた尾崎武壽・同社社長は「日本協がメーターを認証品に追加されるのは、メーターケースの製造・加工工程から組み立て、検査など一連の工程を見学。担当者に熱心に質問する姿が見られた。

住民の水道水への信頼を守るという意味で良いことだと考えている。この事業所はメーター製造の最新技術も備えているので、今後の議論に役立てていただければ」と歓迎の意を示した。前澤給装工業は、JIS規格対応の乾式水道メーターを6種類(13と40ミ)ラインアップしている。一行は、



尾崎社長

証セシ  
自社  
と認証  
評価を  
を決定  
事業者  
のため  
式承認  
ことつ  
試験結  
く調査  
をを活  
るるた  
登録申  
上月に  
が、  
弊の構  
努力の  
途範な

は自社検査工場調査を開始し、随時認証登録を行う。なお、同委員会では正副委員長の選任が行われ、引き続き眞柄氏が委員長を務めることになった。

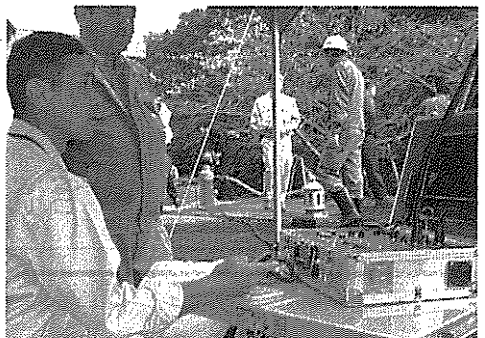
た。眞柄委員長は「TPPが話題になっていくが、もともと日本協の認証制度は、貿易障壁の緩和を踏まえ、住民に安心して水道を使ってもらうための制度。欧米と比べてもしっかりした基準になっている。この認証制度が国民の支持を受け続けられるように尽力したい」と抱負を述べた。

### ロボットの操縦学ぶ

#### 日本水中ロボット調査清掃協会 技術認定講習会開く

日本水中ロボット調査清掃協会(会長 濱田康義・浜田工業会長)は7・8日の両日、静岡県熱海市で技術認定講習会を開いた。講習会では座学・実技が行われ、特に実技面では新型ロボットが

投入され、ロボットの操縦に大勢の会員が取り組んだ。講習会に先立ち、濱田会長は「講習会で技術を身につけて一層社会に貢献すべく努力していきたい。今年には東日本大震災



新型ロボットの操縦も

をほしめ、世界各国で災害が多く発生しており、水の管理の重要性が再認識されている。講習会で学んだことを日常の仕事に役立ててほしい」と要請した。

事が説明した。また、東京都大学の長岡裕教授が「最近の浄水処理方法の傾向と配水池における濁質に与える影響」をテーマに講演した。長岡教授は浄水プロセス



濱田会長

欧現地法人が生産・販売へ  
アムコン  
汚泥処理関連装置の製造・販売を手がけるアムコン(本社・横浜市)は、このほど、チェコ共和国に現地法人「アムコンヨーロッパ」を設立し、来十月より現地生産品の販売を開始する。欧州全

ている」と激励した。続いて座学に入り、「水道基礎知識について」を原典・同協会理事が講演、ロボット作業手順を塩田真輔・同協会理事が説明した。また、これからの配水池管理のあり方は、濁質の沈殿池としての機能や配水池における残留塩素低減の防止、緊急貯水槽としての位置付けなど、配水池内の水質管理の重要性がますます重要になってくる」と強調した。

センサムが下水管こ

者は熱心に聴講した。森氏は、動力炉・核燃

「施設管理技士は有望資格」

ていると感じる人もいるだろうが、なぜ違うのか考えながらよ